

千葉空襲 忘れない

2市民団体 名簿づくり 公的資料でも 死者数不一致

「犠牲者情報寄せて」

公的な記録で死者数が一致しない千葉空襲。その犠牲者の名簿づくりを二つの市民団体が始めた。遺族の高齢化や個人情報問題から調査は簡単ではなく、両団体は「戦争を語り継ぐためにも犠牲者の情報を寄せてほしい」と呼び掛けている。

きょう千葉で集い



千葉空襲犠牲者の名簿づくりに向け、打ち合わせをする「千葉市空襲と戦争を語る会」のメンバーたち＝同市中央区

活動に取り組んでいるのは、千葉空襲の経験の後世に伝えるため、体験者への聞き取りや伝承活動をしている市民団体「千葉市空襲と戦争を語る会」(白井進代表)と「ちは。戦争体験を伝える会」(市川まり子代表)。語る会によると同空襲の死者は、一般に約900人とされる。だが公的資料だと、千葉市は945人としている一方で、天皇への上奏文や戦災遺族会報告書は890人、経済安定本部は898人、全国戦災都市連盟は1173人とバラバラだ。いずれも名簿はない。両会は今年に入って死者

名の調査活動を始め、これまで335人を特定した。しかし、市民団体の調査なので「葬られていないお寺に行っても詳細は教えてもらえないことが多い」(事務局の伊藤章夫さん)という。遺族が見つからないケースも目立つ。行政の協力も得られていない。同様調査をした仙台市や高知市などは市民団体と行政が協力して名簿づくりをしている。だが千葉市は290人分の死者名を把握していることを明らかにしたが、個人情報理由に開示は断られたという。語る会の白井代表は「このような悲惨な戦争を二度と起こさないためにも、犠牲者を概数でなく、一人ひとりの名前を明らかにして語り継いでいく必要がある。行政を含めた幅広い協力がほしい」と訴える。

千葉空襲

1945年6月10日と7月7日にあった米軍による千葉市中心部への爆撃。6月の空襲は、日立航空機千葉工場(現在のJFEスチール東日本製鉄所付近)が目標とされ、千葉師範学校

女子部、省線千葉機関庫(現在のJR千葉駅付近)などが被害を受けた。7月の空襲は「七夕空襲」とも呼ばれ、焼夷(しょうい)弾の投下とともに市民をめがけ機銃掃射も行われた。2度の空襲で市中心地(約330㌖)の約7割が焼失した。

両会は死者名簿の作成とともに、空襲の慰霊碑の建立も計画している。空襲のあった7日午後2時から、千葉市文化センター(同市中央区)で、「戦争を繰り返さないための集い2011」(無料)を開く。空襲体験者5人の講演や経験談をもとにつくった紙芝居の上演も行う。死者名の情報、集いについての問い合わせは、語る会事務局の伊藤さん(080・5305・3739)へ。(重政紀元)